令和６年度健康福祉サービス自己評価結果　　草津市立草津第二保育所

新保育所保育指針で「保育所は保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価を踏まえ園の保育の内容について評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない」ことが明記されています。よって本所ではこれに基づき自己評価について公表します。

評価日：　令和７年１月３１日 対象者６０名

自己評価結果	評価基準	
A	８５％以上	よくできている
B	６５％以上	できている
C	４５％	検討が必要

評価項目	結果	取り組み状況
理念・基本方針が確立、周知	A	同和保育所としての設立の主旨、「保育目標」や「めざす子ども像」が重要事項説明書等に明記され、職員、保護者に周知されている。
事業計画が適切に策定	A	園内会議で進行及び振り返りを行うことで、事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。
福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制	B	当保育所の利用を希望している保護者が多い中で、人材不足もあり入所が難しい状況となっている。今後も保育士不足は否めないため、積極的にボランティア、実習生を受け入れ、保育士になりたいと思える支援を行う努力が必要である。
地域との関係	B	未就園児の対象の子育て広場を定期的に実施している。しかし、定期的に地域の方と交流を持つことが少ないため、保育所や子どもの様子を様々な世代に知ってもらえる機会としてつながりが持てるよう事業を進めていく。
子どもの人権を尊重した保育	A	毎月、計画や課題に合わせてテーマを決め、グループに分かれて話し合うことを大切にしている。普段から職員自身が大切にしていることを振り返りながら語ることや、他の職員の思いや考えを知ることで、多様な物事の見方ができるようになってきている。子どもや保護者だけでなく、職員同士の関わりにおいても自分が大切にされていると感じられる関係性の構築に努めている。
保育内容の充実	A	「子どもの育ちを支援する関わりや環境について」のテーマを基に取り組んでいる。子どもたちが夢中になって遊びこみ、継続した遊びとなるための保育者の意図的・計画的な環境を所内公開保育で探り、語り合うことで子どもの育ちを園全体で考えていくようにしている。

次年度への取り組み
子どもたちが祖父母との関わりが少なくなっていることから、高齢者との交流を計画し、つながりを持ちたいと考えている。そのため、近隣の施設の高齢者の催しに園児が参加させてもらうことで、交流できるよう事業を進めていく。
総評
全体的には「A」が多くできているという評価が多いが、自己評価を行うことで職員自身が保育の見直しをし、保育所全体で保育や運営について改めて考えるきっかけとなった。今後とも子どもの人権を尊重した保育を行うために、職員間で保育を振り返り、思いや考えを語り合うことで子どもたちが安心して過ごせるよう努めていきたい。